

市民ファンド推進プログラム【助成事業】（第2期）
「市民ファンド／コミュニティ財団の『助成する力』を高める」

2018年度助成 選考結果のご報告

2018年10月

特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド

市民ファンド推進プログラム【助成事業】（第 2 期）
「市民ファンド／コミュニティ財団の『助成する力』を高める」

2018 年度助成 助成対象一覧

| | プロジェクト名 | 団体名 or 基金名／代表者名 | 所在地 | 助成額 |
|-----------------------------|--|--|-----|-----------|
| 1 | 伴走支援と一体となったクラウドファンディング型助成プログラムの開発 | 認定特定非営利活動法人 北海道 NPO ファンド 代表理事 田口 晃 | 北海道 | 190 万円 |
| 2 | 地域の支援力と受援力の双方の向上に向けた助成プログラムの構築 | 一般財団法人 世田谷コミュニティ財団 代表理事 水谷 衣里 | 栃木県 | 195 万円 |
| 3 | NPO の成長・発展に役立つ助成プログラムの開発～地域内外の連携を活用して～ | 公益財団法人 ひょうごコミュニティ財団 代表理事 小森星児／実吉威 | 兵庫県 | 180 万円 |
| 4 | 「立ち止まり対話するための助成金」構造化・横展開事業 | AKBN（アケボノ）ファンド 〔設置団体：認定 NPO 法人アカツキ〕 代表理事 永田 賢介 | 福岡県 | 85 万円 |
| 助成件数 : 4件 助成総額 : 650万円 | | | | |

* 助成期間は 2018 年 10 月 1 日から 2019 年 9 月 30 日までの 1 年間。

市民ファンド推進プログラム【助成事業】（第2期）

2018年度助成 選考総評

選考委員長 安藤 雄太

今年度の市民ファンド推進プログラムの助成対象を決定した。応募件数 14 件を対象に選考委員 6 名による書類審査を踏まえ、助成総額予定が 650 万円（1 団体上限 200 万円）であることから助成対象団体 4～5 件を目安として選考を行った。

選考にあたっては、中間支援組織が NPO 等の活動団体に寄り添いながら支援していく創造的・開拓的プログラムであり、効果ある実践・運営等を期待して審査を行った。

選考委員会では、各委員の推薦案件（5 件）を推薦順位に沿って点数化した上で、先ず推薦点の低かった 5 件について協議した。いずれも、○目的は明確であるが、ニーズや発展性についての検討の有無など含め具体性が乏しい、○目標と実施内容等が合致していない、○実施体制が弱い等、目標や具体的プロセスなどが脆弱であることなどの共通した意見が多かった。

次に、推薦順位が高い委員もいたが全体的には推薦点が低かった 2 件について検討を加えた。寄付者への意識化や助成する力の強化に結びつくなど、企画や問題意識などに対する視点は高く評価されたものの、その実効性や効果性に対する疑問もあった。

最終的に、総じて高い推薦点であった 7 件に絞り各申請案件の検討を行った。その主な意見の要約から、○団体のミッションから目標が明確であり、その手法や実施体制などから実現可能である、○問題意識が明確、○実施体制や方法に具体性がある、○新しいテーマである、○コンセプトが明確である、○従来の取り組みを踏まえ、さらなる発展につながる、などの積極的な意見があった。一方、○目標をさらに絞った方がよい、○この企画内容であればこの助成がなくても実施できるのではないかと、○ファンドレイズ計画の目標額は実行可能か、○問題意識に独自性がない、○効果が見え難い、など厳しい意見もあった。

以上、各委員からの多様な角度からの意見を踏まえ、助成候補 4 件、補欠 1 件を決定することになった。

この決定をもとにして各対象団体に対して事務局がヒアリングを行い、助成対象および助成金額の委員長決裁を行った。助成候補の 1 件は、ヒアリングを実施する中で、現時点で基金が未設置であり、助成期間内にも基金の設置や助成プログラムの開発が実現しないことが明らかになり、助成要件に不備があったことから、助成の対象外とした。その上で、補欠 1 件は新しい可能性が認められることから、これを採択とし、4 件を今年度の助成対象とすることになった。

以下、助成対象となったポイントについて概括してみる。

まず、＜一般財団法人世田谷コミュニティ財団＞「地域の支援力と受援力の双方の向上に向けた助成プログラムの構築」について、これまでの地域での実践を活かし、主体的にかかわる市民を増やすプログラムとその実現が「まちを支える生態系をつくる」ことに向けた着実な実践が可能なプロジェクトとして期待できる。

次に、＜公益財団法人ひょうごコミュニティ財団＞「NPOの成長・発展に役立つ助成プログラムの開発～地域内外の連携を活用して～」は、すでにある2つのプログラムが改善期にあり、さらに新たに1つのプログラムの開発に向けた取り組みと方法は評価できる。今回の助成では確実に有効的な取り組みとなるように2つのプログラムに絞り、人材の育成とプログラムの開発に取り組むことを期待する。

次に、＜認定特定非営利活動法人北海道NPOファンド＞「伴走支援と一体となったクラウドファンディング型助成プログラムの開発」は、クラウドファンディングが単なる寄付金集めではなく、「ファンドレイズの意識や文化」を地域において創ることを目標に、各地域においてクラウドファンディングの実践を通して伴走者を育てる一步として、2つの地域で試みることは評価できる。

最後に、＜AKBN（アケボノ）ファンド＞「『立ち止まり対話するための助成金』構造化・横展開事業」については、非常にユニークな取り組みであるとの意見もあり、NPOへの助成金ニーズ調査を踏まえて助成のあり方等を提案していただけるものと期待している。

いずれにしても今回の選考にあたり、申請いただいたどの団体も地域制、経験性、実践性などを踏まえての申請内容であり、本来ならどの団体のプロジェクトも関心深い内容であることは言うまでもない。しかし、残念ことに助成枠があることもあり、相対的な視点から助成できなかった。その意味からも今回の助成対象となったプロジェクトをはじめ、申請いただいたプロジェクトも、これからの市民活動が豊かな実践と地域社会づくりをしていくための先駆的事例として位置づけられると思う。とりわけ単なる助成活動ではなく、中間支援組織の本来持つ役割としての伴走的役割と市民に支えられた社会創りを推進する活動団体の基盤と多様なプログラム実践として期待されていくであろう。

（参考：選考経過と結果）

- ・応募受付： 6月15日（金）～6月29日（金） *応募件数14件
- ・書類審査： 7月10日（火）～7月23日（月）
- ・選考委員会： 7月27日（金） *助成候補4件、補欠1件を選出
- ・事務局による現地ヒアリング： 8月中
- ・委員長決裁会合： 9月10日（月） *助成対象4件、助成総額650万円を決定

* * *

2018年度助成 選考委員会

| | | |
|-----|--------|---|
| 委員長 | 安藤 雄太 | 東京ボランティア・市民活動センター アドバイザー |
| 委員 | 阿部 陽一郎 | 社会福祉法人中央共同募金会 理事・事務局長 |
| 委員 | 今田 克司 | 認定特定非営利活動法人日本NPOセンター 副代表理事 |
| 委員 | 岸本 幸子 | 公益財団法人パブリックリソース財団 代表理事・専務理事 |
| 委員 | 佐谷 和江 | 株式会社計画技術研究所 代表取締役 |
| 委員 | 吉野 裕之 | 一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団 チーフ・プログラム・オフィサー |

助成対象の概要と推薦理由

プロジェクト名： 伴走支援と一体となったクラウドファンディング型助成プログラムの開発

団体名： 認定特定非営利活動法人北海道 NPO ファンド

代表者名： 代表理事 田口 晃

所在地： 北海道

本プロジェクトは、北海道札幌市内および旭川市内において、本団体がクラウドファンディングを実施する市民活動団体を選定し、対象団体が寄付を集めるところから伴走する仕組みを持った助成プログラムの開発を行うものである。併せて、広域に広がる道内各地において、本団体が持つ地域の NPO 支援センターとのネットワークなどのリソースを活かし、各地に組織診断が可能な伴走者を増やすための研修も行う。

クラウドファンディングの実施時から団体に伴走する仕組みを持つ助成プログラムは新規性があり、地域の中で新しいファンドを根付かせる実験的な試みであることが評価された。

今回、対象とする地域は札幌と旭川であるが、実験的な取り組みによって得られた知見が、道内各地に広がることを期待したい。同時に地域のニーズを踏まえて助成プログラムの骨子となる趣旨やテーマを作り込んでいく視点を持ち続けて欲しい。

プロジェクト名： 地域の支援力と受援力の双方の向上に向けた助成プログラムの構築

団体名： 一般財団法人世田谷コミュニティ財団

代表者名： 代表理事 水谷 衣里

所在地： 東京都

本プロジェクトは、「まちを支える生態系をつくる」という本財団のミッションを実現するために、市民参加型で「世田谷版事業指定助成プログラム」を開発、運営に取り組むものである。プロジェクトを通じて、本財団の支援力アップと助成先となる活動団体の受援力アップに向けたノウハウ蓄積をめざす。

具体的には、地域の社会課題を発見・設定するために市民や活動団体にも参加を呼びかけたワークショップを開催し、そこで挙げた意見を基に助成テーマを具体化すると共に、助成対象団体のメンター（伴走者）となるプロボノ人材のコミュニティづくりにも取り組む。「世田谷版事業指定助成プログラム」は、2018 年内に公募を開始し 2019 年 4 月に助成を開始する計画であり、並行してメンターを対象とした勉強会や交流会も定期的で開催する。

財団のミッションと応募企画がマッチしており、実現性や伴走支援の具体的なイメージを持てる点などが評価された。本団体には、長年にわたり世田谷の市民活動を応援してきた「世田谷まちづくりファンド」の運営委員やメンターとして関わってきた理事やアドバイザーが複数名おり、その知見や経験も活かしながら、財団のミッション実現に向けて、「助成する力」が高まっていくことを期待したい。

プロジェクト名： NPO の成長・発展に役立つ助成プログラムの開発～地域内外の連携を活用して～
団 体 名： 公益財団法人ひょうごコミュニティ財団
代 表 者 名： 代表理事 小森 星児／実吉 威
所 在 地： 兵庫県

本プロジェクトは、本財団が新規に立ち上げる助成プログラム（有園博子基金）の企画開発と、既に実施している助成プログラム（輝け加古川こども基金）の見直し・更新に取り組むものである。

個人の遺贈による「有園博子基金」については、テーマは「DV・性暴力・虐待等の被害者支援」と決まっているが、選考方法や助成金額等のプログラムの仕組みについてはこれからであり、企画委員会を立ち上げて、今秋の公募開始をめざして検討を重ねていく。「輝け加古川こども基金」は、こども・若者支援をテーマとする個人寄付による基金で、既に3年間継続している。地域のNPO支援センターと協力しながら、過去に行った助成事業の評価と見直しを行い、プログラムの新たな展開をめざす。

本財団では、活動の原点を助成プログラムと捉えており、その企画開発や見直し、更新を丁寧に行うことは同団体のみならず市民ファンド／コミュニティ財団の将来を見据えた取り組みであると評価された。これらの取り組みを通じて多くのステークホルダーやスタッフとの対話や議論を重ねることで人を育てるとともに助成する力が底上げされることを期待したい。

プロジェクト名： 「立ち止まり対話するための助成金」構造化・横展開事業
基 金 名： AKBN（アケボノ）ファンド [設置団体：認定NPO法人アカツキ]
代 表 者 名： 代表理事 永田 賢介
所 在 地： 福岡県

本プロジェクトは、理事会や事務局でのミーティング、受益者や支援者へのヒアリングなど、組織内やステークホルダーとのコミュニケーションに関わる管理費への助成と本団体の伴走コンサルティングをセットで行う「AKBN（アケボノ）ファンド」の制度改善に取り組むと共に、本ファンドの特徴や仕組みを他の助成機関に情報発信していくことを通じた横展開をめざす。

制度改善と横展開に向けた取り組みとして、①助成機関へのヒアリング、②NPOの助成金ニーズ調査、③助成金の出し方フォーラムを実施する。3つの取り組みを通じて、本ファンドの制度改善に向けた情報を収集し、課題を整理すると共に、そのプロセスや結果の発信を通じて助成機関へフィードバックする。

約2年間の企画開発を通じて生まれた組織体制を見直すための助成というユニークなプログラムであり、市民ファンド／コミュニティ財団の「助成する力」として独自の視点や今後の発展性などが評価された。今回の助成を通じて、本ファンドの成長と発展につながることを期待したい。